

最優秀賞

私のサツマイモ

兵庫県神戸市立御影北小学校三年 鈴鹿 蒼

私のランドセルの色はしぶい。
茶色とも赤ともいえない、マルーン色と言われる
「おしゃれなはん急電車の色」をくすませた色だ。
ずばり言うなら、サツマイモ色だ。「どっこらし
よ」とせ負うのがびったりな感じだ。

ランドセルを買う話が出たのはようち園の年長に
なったばかりの春だった。その話を聞いてから、私
はどの色にしようかと、家の前を通る上級生のお姉
ちゃんたちのパステルカラーの水色やあわいラベン
ダー色のランドセルを毎日なめるように見てはなや
んでいた。ようち園でも女の子たちは集まって、毎
日のように「何色を買うのがいいか？」とランドセ
ル会ぎを開いていた。

しかし、結局は「おねえさんっぽい」という、大
人の意見におされて、サツマイモ色にした。友達は
同じく、やはり大人に「かしこそうに見える」とお

されたチョコレート色にした。大人の意見は強かつ
た。その結果に友達とは、
「おいしそうな色だからいいだろう、いいせんたく
をした。」

とほめ合うしかなかった。

実さいぬのにくるまれて箱でどいたランドセル
は、さりげなくキラキラしたちようのししゅうがさ
れてあり、かっこいい金ぞくのネームプレートがつ
いていて、ハートのとめ具も光っていて、私は毎日
なでまわしてはホクホクしていた。雨の時もぬれな
いように、まずランドセルにかさをかけて学校へ通
った。

しかし、小二になったばかりの下校中、私は葉っ
ぱにつるりと足を取られてドブにはまり、ケガはし
なかったものの、私を守ってくれたランドセルには
たくさんのキズとしみがついてしまった。私はあま

りのショックに、わんわん泣いた。
すると母は、

「ランドセルは皮でできていて、これは使いこんだ
人の時間をきざんで成長していく。重さで少しず
つ皮が伸びたり、ツヤが出たり、キズもなじんで
も様みたいになってくる。このシミも小学校の思
い出アルバムみたいなものだ。どういう味のある
ランドセルにするか、これから大事に育てたら
いよ。」

と笑った。

それを聞いて、私はますますランドセルに思い入
れが深くなった。「手さげだけで登校してもいい」
と言われた終業式も、私のアルバムをきざむために、
軽い通知表と筆箱だけをかたかた音をさせて、ラン
ドセルで持って帰った。

小学校六年間、雨の日も風の日も、このサツマイ
モ色のランドセルに、私はどれだけたくさんの思い
出をきざんでいくことができるだろう。

一緒に卒業式をむかえたその時、きっとこの私の
サツマイモは、宝物のような時間をためこんで、黄
金色にかがやいているのだろう。

私はそれを「どっこらしよ」とおろして、きれいに



みがいて、ゆっくりとながめたいと楽しみにしている。